

稲作のはじまり

縄文時代も終わりを迎えようとするころ、^{ちょう}朝鮮半島から稲作の技術を持つ人びとが九州北部に渡ってきました。やがて、稲作は広がり始め、弥生時代とよばれる新しい社会がおとずれます。

第 1 章では、かごしまにおける稲作の始まりと広がり、その特徴について紹介します。



日本に伝わったジャポニカ米に一番近い米と考えられる赤米の田んぼ
(写真提供・南種子町教育委員会)